

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島県立広島南特別支援学校
-----	---------------

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

年3回行った生活リズム調査から、全学部の幼児児童生徒が、授業日、休日を問わず92%以上、朝食を食べているという結果が得られ、朝食を食べるという習慣は身に付いてきている。しかしながら、全ての調査において、朝食では野菜を全く食べなかったと答えた児童生徒もあり、食事の内容については、偏りがあり、十分でない実態がある。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

望ましい生活習慣の形成（学校経営計画）

6月、夏季休業後、冬季休業後の年3回生活リズム調査期間を設け、家庭との連携を図り、生活習慣や食の大切さについて指導する。それぞれの発達段階に応じた内容で、自らの生活について振り返り、望ましい生活習慣や食習慣を形成しようとする幼児児童生徒を育成する。

成果指標：幼児児童生徒又は担任による生活習慣チェックの肯定的評価。

目標値：平成29年度実績値86%をうけ、目標値を88%とした。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ）養護教諭と連携した幼稚部への指導

月に一度、養護教諭と連携し、幼稚部の朝の会で指導を行った。今年度は特に、当日の給食に使用している野菜を持参し、実物に触れながら、野菜の名前を確認したり、食べると体がどうなるかといった内容で、野菜をより身近に捉えられるように工夫した。当日の給食時間は、学んだことの再確認の場となり、朝見た野菜を探している様子や、習った内容を伝えようとする様子なども見られ、食べる意欲につながっている。また、指導に使用した教材は1ヶ月間掲示し、幼児の理解や記憶に残るようにした。

【取組2】（テーマ）給食の時間における食に関する指導

年に2回、社会性や年齢に応じたコミュニケーション能力を身に付けることを目的に、普段は、学部ごとに食べている給食を、幼児児童生徒用テーブルと職員用テーブルに分け、配膳準備から、後片付けまでを各テーブルの子供たちだけで行う交流給食を実施した。2回目の12月の交流給食では、高等部の作業学習で育てた大根を豚汁に使用して実施した。当日の給食時配付資料では、収穫している写真とともに、大変だったことなどを記して配付した。全員が生徒の作った大根を意識して食べ、自らお礼を伝える児童や、ほめられてうれしそうな生徒の様子なども見られ、充実した給食時間となった。

また本校は、学校全体で読書活動の充実に取り組んでおり、食事環境の整備の1つとして、昨年度より食堂内にも図書コーナーを設置している。司書教諭と連携して本の選定なども行い、食べ物の絵本や行事に関する本、野菜や魚の図鑑などを置いている。食後の読書だけではなく、これらを使って、苦手な物や使用材料を説明するなど、給食時間に個別指導を行うことができ、児童が納得して食べる様子も見るようになった。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

全県統一メニュー「ひろしまオールスター★担々丼」に合わせて、県内の特別支援学校の栄養教諭・学校栄養職員で考案した「トクトク★おこめんスープ」を実施した。平成28年度より、子供たちに「トクトクシリーズ」として、定着するよう取組を継続している。「トクトク」は、特別支援学校の「特」であり、たくさんの栄養が取れる「得」などの意味を込めている。

また、今年度のものにとどまらず、過去の「ひろしま給食」を学校給食だけでなく、寄宿舎の夕食においても実施する等、校内での興味が高まるよう取り組んだ。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

望ましい生活習慣の形成については、目標値88%に対し、幼稚部80.0%、小学部76.8%、中学部85.6%、高等部79.8%であり、全体として80.6%という結果で目標を達成することはできなかった。

起床・就寝時間等いくつかの調査項目がある中、朝食の摂取率だけを見ると、幼稚部、小学部、中学部では96%、高等部では、約90%という結果であった。特に冬休み明けに行った最後の調査では、小学部、中学部において、課業日、休日を問わず、100%朝食を食べているという結果であった。校内全体で基本的な生活習慣の定着に向けて取組を進めてきた成果の1つであり、保護者の理解、協力を得ることができた結果だと捉えている。

【課題】

昨年度に続き朝食を食べるという習慣は、ほぼ身に付いているものの、朝食内容については、大きな変化、改善はなく、野菜を食べる人、食べない人の個人差が顕著に表れている実態がある。日々の給食を通して、野菜の必要性などについて指導しているものの、なかなか行動変容には至っていない。

6 今後の取組に向けた改善方策について

(1) 食育の推進

校内において、さらに系統性のある計画的な指導として定着するよう、保健安全部を中心に取組を進めていきたい。

(2) 食に関する指導の充実

給食時間だけでなく、教科等の中でも、学校給食を用いた指導を行い、日々の給食が食事の理想モデルであることを子供たちに理解させ、食生活に対する行動の変容へと結び付けたい。幼児には、食べ物や自分の体への興味関心を高める内容、児童には、食べ物の種類や野菜の働きについて、生徒には、食事のバランスや正しい食習慣など、発達段階に応じた食に関する指導を継続して実践を積み重ねていきたい。

(3) 保護者との連携

給食だより等で、理想の食事パターンや簡単レシピを示すなど、具体的で実践しやすい内容を提示する。食への興味が深まるような働き掛けを、保健安全部内で検討し、取り組んでいきたい。